BOSE®

OWNER'S MANUAL

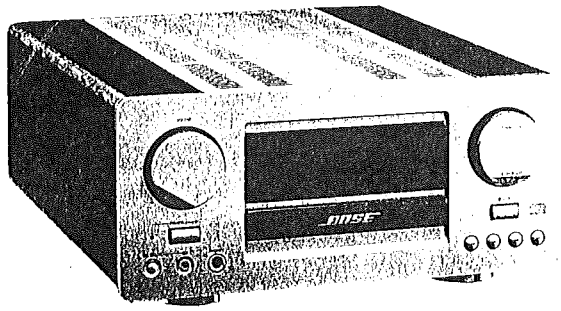
CDアンプリファイヤー

PLS-1210

(アンプ内蔵コンパクトディスクプレーヤー)

この度はPLS-1210をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう大切に保管されるようおすすめいたします。

PLS-1210取扱説明書



※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

目　次

安全のために

特　長 ……2
ご使用になる前に ……3
結露について ……4
本体のお手入れについて ……4
開梱時のご注意(付属品について) ……4

準　備

接続の方法 ……4
スピーカーの種類による設定の方法……5
●モデル121と接続 ……5
●モデル363と接続 ……5
●121、363以外のスピーカーと接続 ……5
スピーカーの設置について ……5

共通操作

リモコンの使い方 ……6
電源ON/OFFのしかた ……7
音量調整のしかた ……7

CD(コンパクトディスク)を聞いてみましょう

コンパクトディスクについて ……8
CD(コンパクトディスク)を演奏してみましょう ……9
ききたい曲を選ぶとき……10

外部の機器を使う

その他の機器の接続……11
●LINE端子に外部機器をつなぐとき ……11
●グラフィックイコライザーなどをつなぐとき ……12
●プリアンプとして使うとき ……12
ヘッドフォンを使って楽しむとき……12
LINE(外部入力)端子に接続されている機器を聞く方法…13
●LINE1に接続されているオーディオ機器を聞く場合 …13
●LINE2に接続されているオーディオ機器を聞く場合 …13

録　音

PLS-1210のCDを外部の録音機器に録音させる方法……14

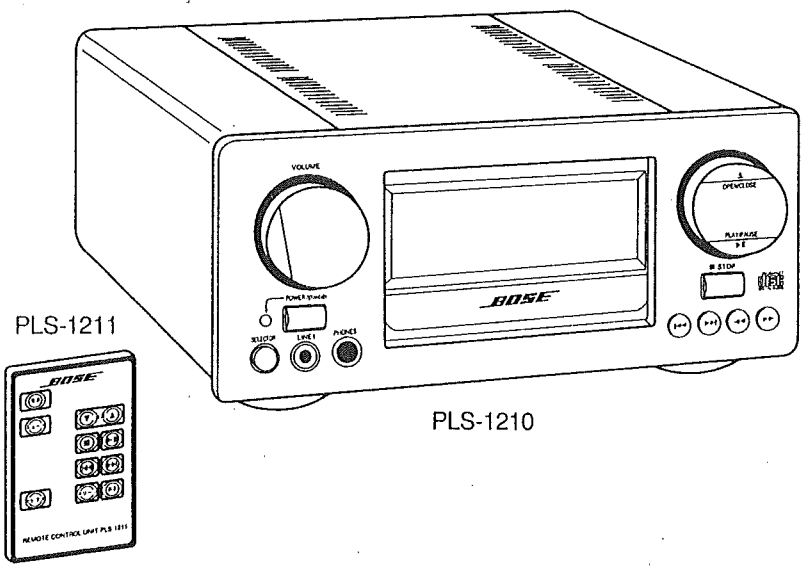
名　称

各部の名称および機能　背面パネル……15
各部の名称および機能　前面パネル ……16～17

その他

故障かな?と思ったら ……18
寸法図……19
仕　様……19
保　証……19

特　　長



外部入力を2系統備えた プリメインアンプ内蔵のCDプレーヤー

コンパクトディスクプレーヤーにパワーアンプと外部入力端子を装備したプリアンプ機能を持たせた全く新しい発想のCDプレーヤーです。

小音量時でもバランスのとれた音を生みだす "PsychoAcoustically Processed" 回路

人間の耳は音量が小さくなるにしたがって、低域と高域が聞こえにくくなる性質を持っています。このため、大きな音では自然に聞こえる再生音も、小音量になると中域だけが目立つもの足りない音になってしまいます。そんな人間の聴覚を研究し、どんな再生レベルでも聴感上もっとも自然な周波数バランスに聞こえるよう、常に自動的にコントロールします。

Model 121、363用 アクティブ・イコライザー回路搭載

スピーカーのインピーダンス特性やダンピング特性などは、入力信号の大きさや周波数に応じて変化し、これが再生音の音質変化などの要因となっていました。そこでボーズでは長年にわたる心理音響学の研究により確立したアクティブ・イコライザー回路を搭載、スピーカーの再生能力を最大限まで引き出し、常にナチュラルなボーズ・サウンドの再生を可能にしています。(121、363、χの3ポジション)

1ビットD/Aコンバータ (MASH方式)

正確にディスクからデジタル信号を取り出し、アナログ信号へと変換するため、18ビット8倍オーバーサンプリングのデジタルフィルターと、原理的にゼロクロス歪みその他のデジタル歪みが発生しない1ビットのD/Aコンバーターを採用、直線性に優れたキメこまやかな再生を可能にしています。

忠実な音楽再生を実現する 2ステージ3ビーム・レーザーピックアップ

品位の良いデジタル信号を取り出すため、レーザーピックアップには3ビーム方式を用い、正確なトレースを実現すると共に、ピックアップのサーボには独自のデジタル・サーボ・コントロールシステムを搭載し、外部振動や電源等の影響を極力少なくすることで忠実な音楽再生を可能にしました。

バーズアイ・メイプル調のサイドパネル

スピーカーの音圧などによる外部振動や駆動系の内部振動に対し、キャビネットの剛性や振動特性、電気特性を追求し、シャーシ部分には鋼メッキを施し、フロントパネルには5mm厚のアルミパネルを採用しました。またサイドパネルは121、363と同じくバーズアイ・メイプル調に仕上げ、高級感を醸し出すと共にコンポーネント・システムとしての統一性を生みだしています。

伝送効率に優れた 金メッキ処理による入出力端子

音楽信号の入口、出口となる入出力端子は、伝送ロスを最小限にとどめるため金メッキ処理を施しました。

信号切り換え用小信号用リレー採用

CD信号切り換えには伝送ロスの少ない小信号用リレーを採用しました。

主な操作が手元でできる カードリモコン付属

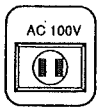
電源のON／OFF、入力ソースの切り換え、音量調節、CDの基本操作を手元で行なうことができます。

ご使用になる前に　安全にご使用いただくためにこのページは必ずお読みください

設置上の注意

次のような場所には設置しないでください。性能の劣化、故障や感電事故の原因および火災の原因になります。

- ●直射日光の当たる場所。
- ●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
- ●投光照明機などの発熱物の近くの場所。
- ●極端に寒い場所。
- ●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
- ●屋外や直接水のかかるところ。
- ●潮風の直接当たるところ。
- ●風通しが悪く、ホコリの多い場所。
- ●振動や傾斜のある不安定な場所。
- ●石油化学製品（ビニール、ポリエステル、プラスッチックなど）やゴム製品で巻いたり、被せたり、下に敷いたり直接触れないようにしてください。
- ●通常の生活環境と大きく異なる場所。



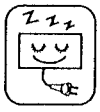
100V交流（AC）電源で

- ●この製品は100V専用です。クーラーなどの200V電源には絶対接続しないでください。故障や火災の原因になり、危険です。また、直流（DC）電源ではご使用になれません。
- ●この製品は国内専用仕様です。海外や電源電圧の違うところでは、ご使用になれません。ご使用になった場合感電事故の原因および火災の原因になります。
- ●電源は、コンピューターや、コンピューターを搭載している機器などのノイズ源となるものに供給しているACコンセントと共有しないでください。ノイズ源となるものに供給しているACコンセントからできるかぎり離れたACコンセントから供給するようにしてください。

電源コードについて

- ●コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグをもって抜いてください。

- ●濡れた手でプラグの抜き差しを行なうと感電する危険がありますので、絶対おやめください。
- ●電源コードの上に重たいものを置いたり、ケーブルに傷を付けたりしますとコードが断線したりショートして火災の原因となる場合がありますのでコードをつぶしたり傷つけたりしないようにご注意ください。



- ●長期間ご使用にならないときは、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

ケースを開けないで

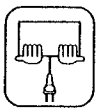
- ●ケースを開けますと、故障や感電事故の原因になります。内部に触れることは絶対にしないでください。また、内部を改造した場合の性能の劣化については保証いたしません。

内部に異物を落とさない

- ●内部に燃えやすいものや、ヘアピン、硬貨などの金属片などが入った場合、また、誤って水などの液体がかかった場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げいただいた販売店又は当社にご相談ください。そのままでご使用になりますと火災や故障や感電事故の原因になります。

シンナーなどで拭かないで

- ●パネルやケースは、ときどき柔らかい布でからぶきしてください。シンナー、ベンジン、アルコール、化学薬品を使用すると表面が侵されたり文字が消えたり外装ムラになることがありますから絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。



セットを移動するとき

- ●セットを移動するときは、接続しているコードや電源コードの断線やショートを防ぐため他の機器との接続コードを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてから動かしてください。

他の機器と接続するとき

- ●他の機器と接続するときは、各機器の電源がOFFになっていることを確認してください。また、セットのボリュームを絞ってから行なってください。

落雷に対する注意

- ●落雷などのおそれがあるときは、コンセントから電源プラグを抜き取ってください。

無理な力は加えない

- ●スイッチやツマミには、無理な力を加えないでください。

音のエチケット

- ●音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。

※あなたが放送やCD、テープ、又はビデオディスクや市販のソフトテープから録音や録画したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

◆ 結露について ◆

冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。CDプレーヤーも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ（ピックアップのレンズ部分）に露が生じ（結露）、レーザーによるコンパクトディスクからの信号読み取りができず、プレーヤーが動作しないことがあります。

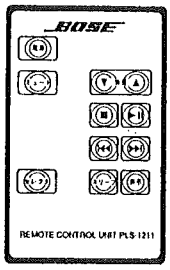
このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ一時間程放置すると結露が取り除かれプレーヤーは正常に動作するようになります。

◆ 本体のお手入れについて ◆

通常は、やわらかい布で乾拭きしてください。汚れがひどいときには、中性洗剤を水で薄めた液にやわらかい布を浸し、よく絞ってから汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコール、化学薬品を使用すると表面が侵されたり文字が消えたり外装ムラになることがありますから絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

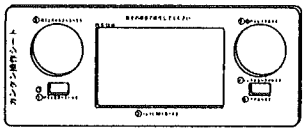
開梱時のご注意

付属品を確認してください

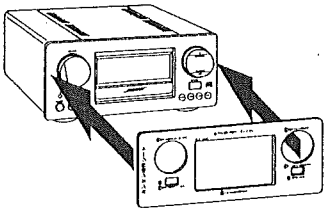


カード型リモコン
PLS-1211
×１個

リモコン用電池 (CR2025)×１個



カンタン操作シート×１枚



カンタン操作シートの使い方

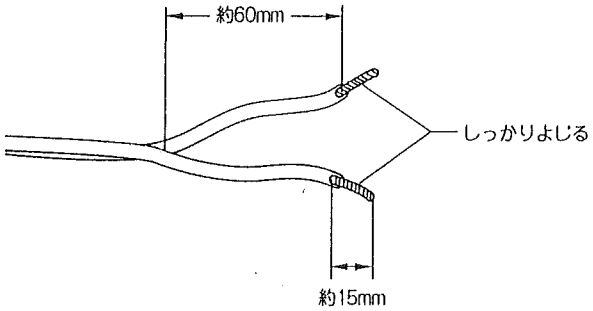
図のように簡単操作シートをPLS-1210のフロント面にはめ込みます。①～⑥の数字の順番に操作することによって、CDプレーヤーの操作ができます。

もし開梱時に損傷などが発見された場合や、内容物が不足しているときはそのままの状態を保ち、ただちにお買上になった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

※スピーカーコード、オーディオピンケーブルは付属しておりません。別途ご用意ください。

接続の方法

1．スピーカーコードの先端の被覆をはがします。



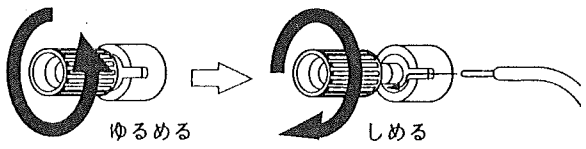
2．スピーカーコードをつなぎます。

本機出力端子に、スピーカーコードを接続してください。出力端子をゆるめコードの芯線部分を差し込み、端子をしめます。
PLS-1210のスピーカー端子は、バナナプラグにも対応しています。

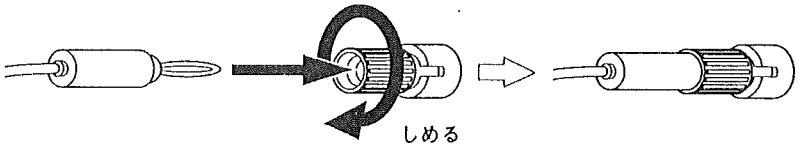
●スピーカーコードは、スピーカーの十端子とアンプの十端子に、スピーカーの一端子とアンプの一端子に接続してください。極性は間違えないようにしてください。接続の際、スピーカーコードの芯が端子からはみ出したりして他の端子に接触しないように注意してください。

※すべての接続が終わるまでは電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。

スピーカーコードで接続する場合



バナナプラグで接続する場合



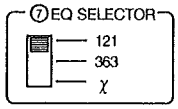
スピーカーコードの極性（十，一）を間違えますと、音の定位がフラついたり低音が出なくなったりします。

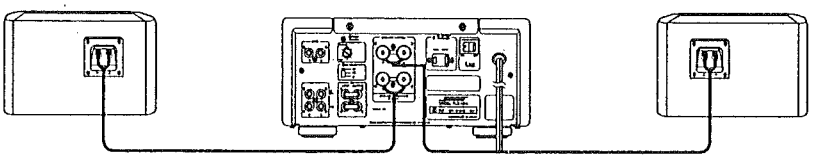
スピーカーの種類による設定の方法

◆ モデル121と接続 ◆

リアパネル上のイコライザーのスイッチのポジションは、下図のように121に合わせて下さい。

リアパネルの設定について

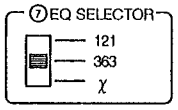


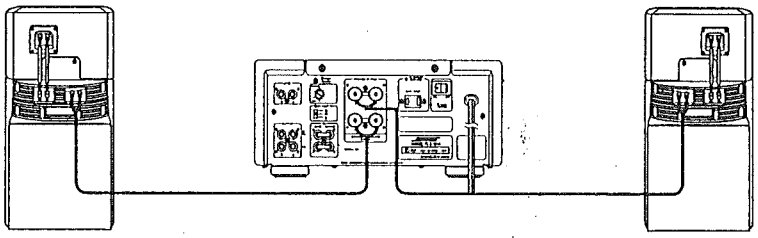


◆ モデル363と接続 ◆

リアパネル上のイコライザーのスイッチのポジションは、下図のように363に合わせて下さい。

リアパネルの設定について

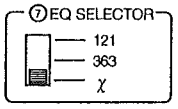


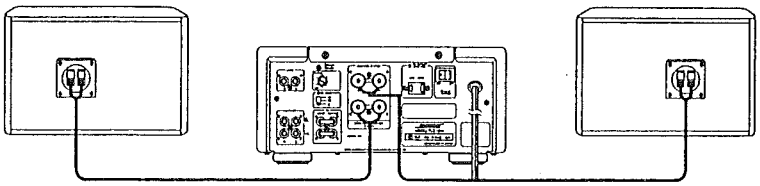


◆ 121、363以外のスピーカーと接続 ◆

リアパネル上のイコライザーのスイッチのポジションは、下図のようにχに合わせて下さい。

リアパネルの設定について





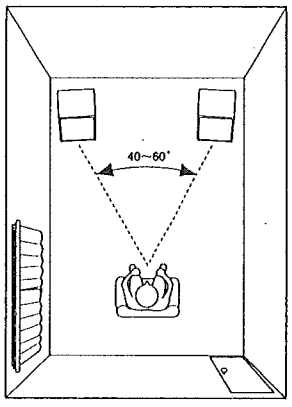
スピーカーの設置場所について

お聞きになる位置は、図のように左右のスピーカーを底辺とした二等辺三角形の頂点が理想的です。

設置について

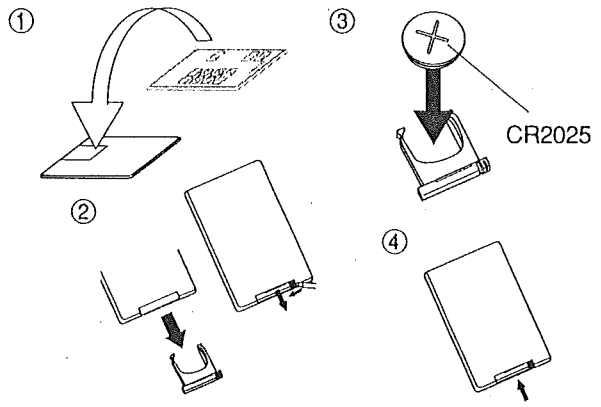
スピーカーの再生音は、スピーカーを設置する場所やリスニングルームの状況などに大きく影響されます。より良い再生音が得られるよう次の点を考慮したうえ、設置してください。

- ●出きるだけ遮音された静かな部屋でご使用ください。
- ●スピーカーは、聴取される耳の高さとほぼ同じになるように設置するのが理想です。
- ●音質は部屋の音響特性によって変化します。室内に吸音処理することによって、周波数に対する残響時間のバラつきを抑え良好な再生音を得ることができます。
- ●スピーカーの正面にガラス戸や壁面などありますと、音の反射や共振が起こりやすくなります。この場合、カーテンや厚手の布などをかけて、吸音処理することをおすすめします。
- ●スピーカーを固い床などに直接置いてご使用されますと、音の反射や共振が起こりやすくなります。この場合、じゅうたんを敷くことによって防止することができますが、じゅうたんの厚みや質によっては、中高域が吸収されすぎることがありますのでご注意ください。
- ●ステレオ再生の場合、左右のスピーカーができるだけ同じ音響条件になるように設置してください。左右のバランスがそろっていないと、定位がぼやけたり焦点の定まらない音になります。
- ●ステレオ再生の場合、左右のスピーカーの間隔は聴取位置との相関によって変わります。通常聴取位置から左右のスピーカーをはさんだ角度は40～60度くらいが良く、あまり狭くすると十分なステレオ感が得られなくなります。



リモコンの使い方

◆ 電池の入れかた ◆



①リモコンを裏返しにします。
②ボールペンなどの先のとがったものや指の爪などを使って図のように電池ホルダーを引き出します。
③ホルダーに電池を入れます。＋側が上になるように電池ホルダー乗せます。電池の上下を間違えないように気を付けてください。
④ホルダーをもとにもどします。

◆ リモコンキーの名称と使い方 ◆

リモコンキーの操作仕様

① 電源ON／OFF キー
電源をON/OFFするキーです。本体POWER/STANDBYキーと同じ機能です。(7、16ページ参照)

② ミュートキー
スピーカー出力, プリアウト出力, ヘッドホン出力がミュート（一時的な消音）します。表示は点滅状態になります。CD REC端子からの出力は、ミュートされません。もう一度押すと解除になります。

③ ▼ 音量 DOWNキー
押し続けている間音量が小さくなります。

④ ▲ 音量 UPキー
押し続けている間音量が大きくなります。ただしミューティング時は反応しません。

⑤ ■ STOP （停止）キー
CDの再生を停止するキーです。本体のSTOPキーと同じ機能です。(17ページ参照)

⑥ ►/II PLAY/PAUSE (CD再生／一時停止) キー
CDの再生／一時停止をするキーです。本PLAY/PAUSEキーと同じ機能です。(7、9、14、17ページ参照)

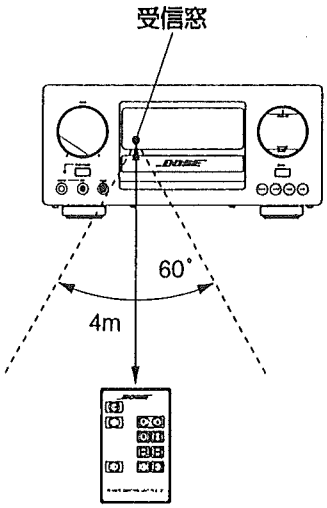
⑦ |◄◄ 選曲キー（戻し）
本体の戻し キーと同じ機能です。(10、17ページ参照)

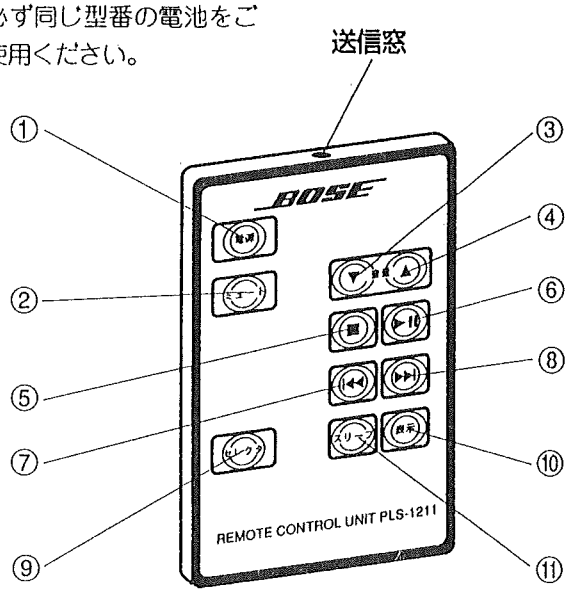
⑧ ►►| 選曲キー（送り）
本体の送りキーと同じ機能です。(10、17ページ参照)

⑨ セレクターキー
外部入力LINE1,LINE2に切り換えるときにこのキーを使います。本体のSELECTORキーと同じです。(13、16ページ参照)

◆ リモコンの動作範囲 ◆

リモコンの電池が消耗するとリモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状がでてきたらリモコンの電池を交換してください。電池を交換する場合、電池の型番(CR2025) にご注意ください。違うタイプのものをご使用になると動かないばかりでなく機器の故障の原因になりますので必ず同じ型番の電池をご使用ください。

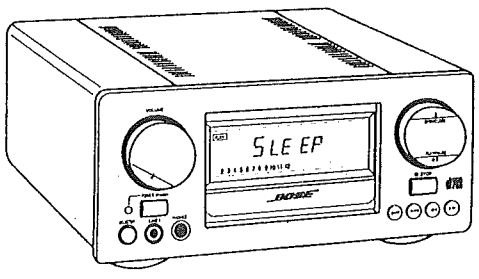




PLS-1211

⑩ 時間表示キー
1回押すと再生中の曲の残り時間を表示しもう1度押すと全体の残り時間を表示し,さらにもう1回押すと通常の表示に戻ります。キーが押されるたびにこれらの動作を繰り返します。このキーはCD再生時のみ有効です。スリープモード時にこのキーを押すと全体の残り時間を表示をした後、数秒後に表示が、"SLEEP" にもどります。

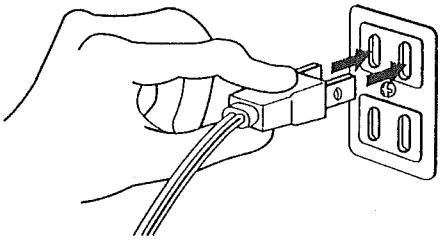
⑪ スリープキー
CD再生時のみ有効な機能で、スリープモードにすると、聞いているCDの最後まで演奏したあと音量を最小にして電源オフします。スリープモードを解除するには、もう一度スリープキーを押します。スリープモード時の表示は、"SLEEP" です。



電源ON／OFFのしかた

※スピーカーコードの接続に間違いがないかもう一度確認してください。
※電源を入れる前は、必ずVOLUMEつまみを反時計方向に回して音量を最小にしておいてください。

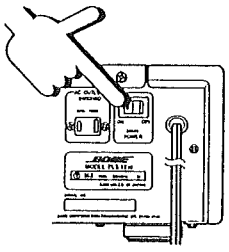
1. 電源プラグをコンセントに差し込みます。



電源コードの極性について

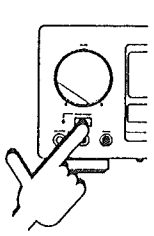
本機の電源コードには極性表示がついているものを採用しています。接続するACコンセントの極性を合わせることによって音質がよくなることがあります。家庭用ACコンセントに極性表示がある場合（一般的には、アース側の差し込み口が長くなっています）、電源コードの白線が印刷されている方をアース側に合わせて差し込んでください。また、背面のACコンセントもアース側の差し込み口が長くなっています。他の機器を接続するときは、極性を合わせることをおすすめします。

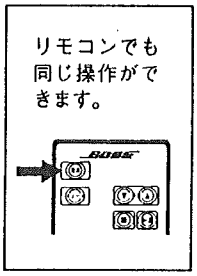
2. 本体裏側のMAIN POWER（主電源）スイッチをONにします。



◆ POWER/STANDBYスイッチで電源を入れる ◆

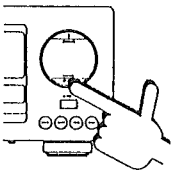
POWER/STANDBY（電源）キーを1回押すと電源が入ります。もう1度押すと電源が切れてスタンバイ状態になります。このとき、表示が消灯しSTANDBYインジケーターが点灯します。

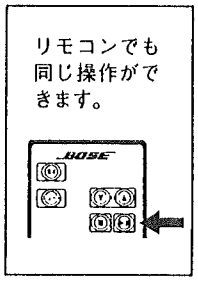




◆ PLAY/PAUSEキーを押して電源を入れる ◆

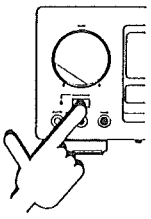
PLAY/PAUSE（再生／一時停止）キーを押します。コンパクトディスクトレーにCDがセットしてある場合は、自動的に再生を開始します。また、コンパクトディスクトレーが空の場合は“dISC”を表示します。

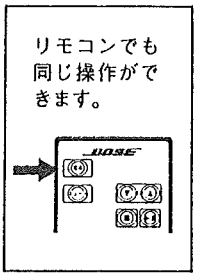




◆ 電源をOFFする方法 ◆

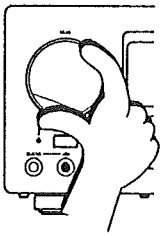
電源がONしているときにPOWER/STANDBY（電源）キーを押すとスタンバイ状態になります。このとき、表示が消灯しSTANDBYインジケーターが点灯します。





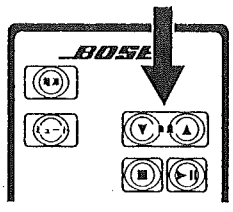
音量調節のしかた

本体側の音量つまみで行なう場合



VOLUME（主音量調整）つまみを、時計方向に回すと音が大きくなります。反時計方向に回すと音が小さくなります。

リモコンで行なう場合



音量 UP（▲）キーを押し続けている間音量が大きくなり、音量 DOWN（▼）キーを押し続けている間音量が小さくなります。また、ミュートキーを押すと、スピーカー出力、ヘッドホン出力がミュート（一時的な消音）されます。表示は点滅状態になります。ミュートを解除するときは、もう1度ミュートキーを押します。

※安全のためミュート中は、音量 UP（▲）キーは使えません。

コンパクトディスクを聞いてみましょう

◆ コンパクトディスクについて ◆

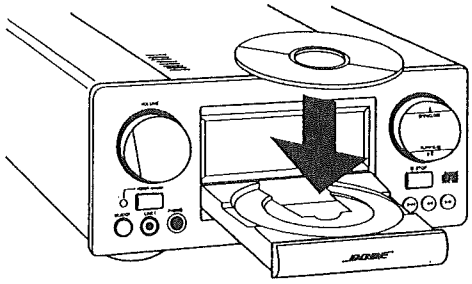
結露現象について

冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。CDプレーヤーも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ（ピックアップのレンズ部分）に露が生じ（結露）、レーザーによるコンパクトディスクからの信号読み取りができず、プレーヤーが動作しないことがあります。
このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれプレーヤーは正常に動作するようになります。

ディスクの取り扱いについて

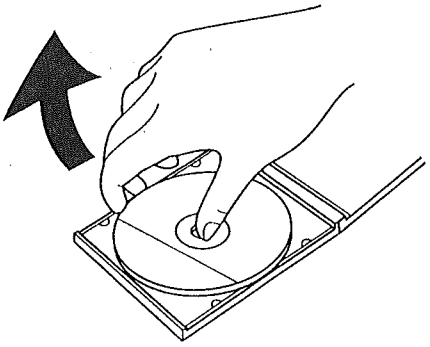
ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。
ディスクのセットは、必ずラベル面を上にして、セットしてください（コンパクトディスクの演奏は片面だけです）。

※CD（コンパクトディスク）は、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。

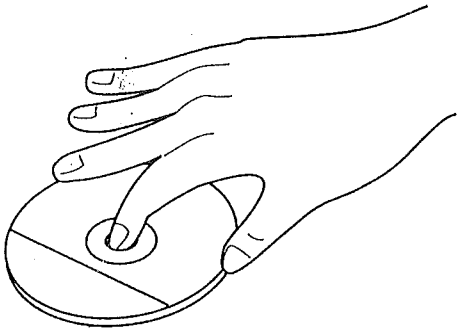


七色に輝く面が表面です。ラベル面が裏面になります。従来のレコードプレーヤーと異なり、コンパクトディスクプレーヤーは、レーザー光線のスタイラスでディスクの下側からディスクに触れることなく情報を読み取ります。したがって従来のレコードのように、使っているうちに性能が劣化するようなことはありません。

ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。

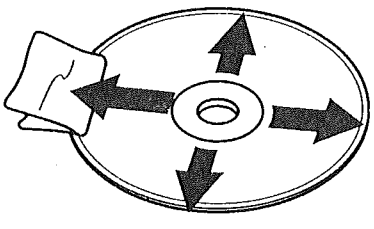


ディスクを持つ場合には、演奏面（ラベルの印刷していない面）に触れないように、両端をはさんで持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。



ディスクの表面はいつもきれいに

コンパクトディスクの表面には最大約60億個の情報が入っています。ディスクの表面を拭くときは必ずコンパクトディスク専用のクリーナーを使用して下の図のように拭いてください。



※コンパクトディスクは、プラスチック製です。従来のアナログディスク用のクリーナーや帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品を使用すると、コンパクトディスクの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。

コンパクトディスク保管上の注意

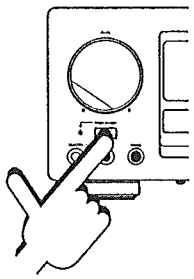
コンパクトディスクはケースにいれて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするため次のような場所に置くことはさけてください。

- 直射日光の当たる場所。
- 暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
- 車の中などの高温になる場所。
- 投光照明機などの発熱物の近くの場所。
- 極端に寒い場所。
- 湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
- 屋外や直接水のかかるところ。

◆CD（コンパクトディスク）を演奏してみましょう◆

スピーカーの結線に間違いがないかどうかもう一度チェックしてみましょう。

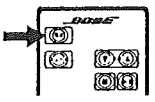
1. フロントパネルのPOWER/STANDBYキーを押して電源をONにします。



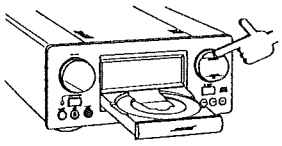
こんな方法も

PLAY/PAUSEキーを押して電源を入れることもできます。

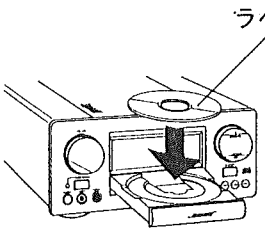
リモコンでも同じ操作ができます。



2. OPEN/CLOSEキーを押してコンパクトディスクトレーを出します。



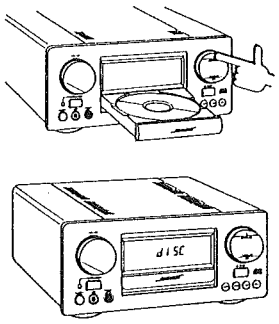
3. お聞きになりたいCDのラベル面を上にして、トレーの中央に静かにおいてください。このトレーは8cmシングルCDもアダプターなしでそのまま再生することができます。



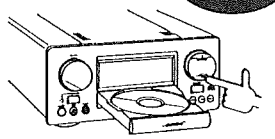
CD（コンパクトディスク）は、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。

4. OPEN/CLOSEキーを押してコンパクトディスクトレーを元に戻します。

※このとき、CDがトレーの上で少しでもずれているとパネル表示に“dISC”と表示して止ります。この場合は、もう1度2～4の操作をやりなおしてください。



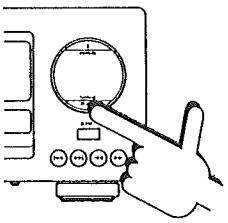
こんな方法も



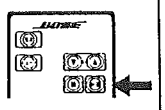
PLAY/PAUSEキーを押すだけでもスタートできます。

5. PLAY/PAUSEキーを押すとコンパクトディスクの再生が始まります。

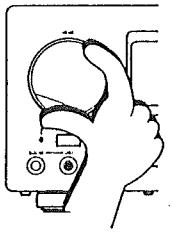
※入力モードがCD以外の場合でもPLAY/PAUSEキーを押すと自動的にCDモードに切り換わります。



リモコンでも同じ操作ができます。



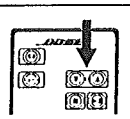
6. VOLUMEつまみを時計方向にゆっくり回してお好きな音量にしてお聞きください。再生中に演奏をポーズ（一時停止）するときは、PLAY/PAUSEキーを押します。
ポーズを解除するときは、もう1度PLAY/PAUSEキーを押します。
再生をやめる場合は、STOPキーを押します。



こんな方法も

OPEN/CLOSEキーやPOWER/STANDBYを押してもCDの再生をやめることができます。

リモコンでも同じ操作ができます。



◆ ききたい曲を選ぶとき ◆

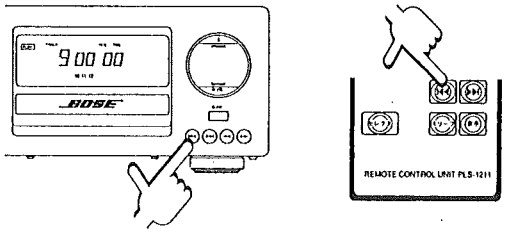
選択キーとマニュアルサーチキーを使って、ききたい曲の頭出しをします。

|◀◀ 選曲キー（戻し）と◀◀ マニュアルサーチ（早戻し）キーを使って選曲するとき

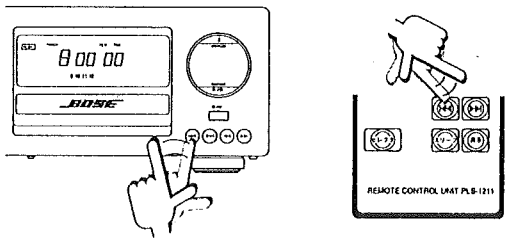
|◀◀ 選曲キー（戻し）を使って選曲する方法

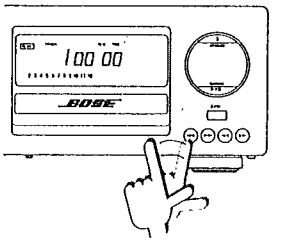
●たとえば、12曲収録されているCDの9曲目を再生しているとき

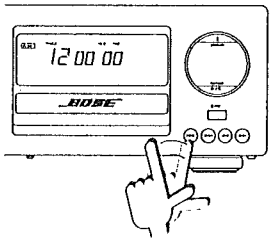
再生中にこのキーを押すと、現在再生中の曲のはじめに戻って再生を開始します。



つづけて押すと1曲ずつ前に戻ります。





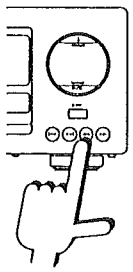


最初の曲まで戻ってしまった場合はそのCDの最後の曲に戻ります。
キーを押すたびにこれらの動作を繰り返します。

※ポーズ中にこのキーを押すと、指定された曲のはじめでポーズ状態を維持し続けます。停止中にこのキーを1回押すと、最後の曲のはじめから再生を開始します。

◀◀ マニュアルサーチ（早戻し）キーを使って選曲する方法

再生中にこのキーを押し続けると、現在再生中のところから早戻しをして、キーを放した所から再生を開始します。キーが5秒以上押され続けた場合は自動的に速度を早めます。



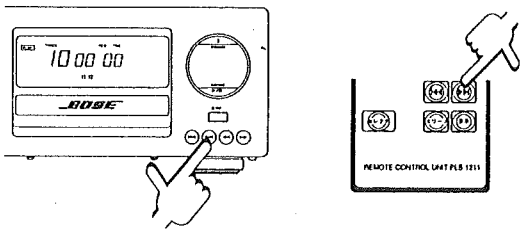
※ポーズ中にこのキーを押し続けると、現在ポーズ中のところから早戻しを行ない、キーを放した所でポーズ状態になります。

►►| 選曲キー（送り）と ►►マニュアルサーチ（早送り）キーを使って選曲するとき

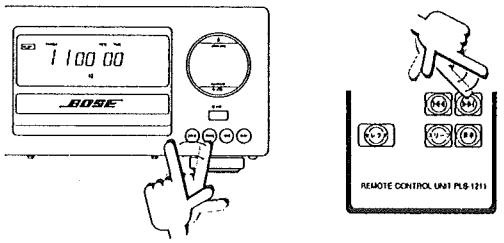
►►| 選曲キー（送り）を使って選曲する方法

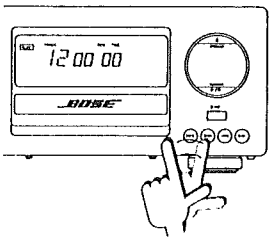
●たとえば、12曲収録されているCDの9曲目を再生しているとき

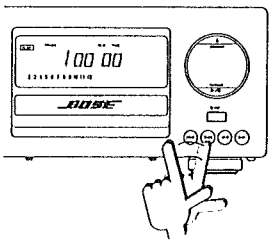
再生中にこのキーを押すと、現在再生中の曲からつぎの曲のはじめに進み再生を開始します。



もう1回押すとさらにつぎの曲に進みます。





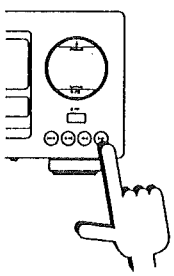


最後の曲からさらに、キーを押した場合は、そのCDの最初の曲のはじめに戻ります。
キーを押すたびにこれらの動作を繰り返します。

※ポーズ中にこのキーを押すと、指定された曲の先頭でポーズ状態を維持し続けます。
停止中にこのキーを1回押すと、2曲目のはじめに進み再生を開始します。

►► マニュアルサーチ（早送り）キーを使って選曲する方法

再生中にこのキーを押し続けると、現在再生中のところから早送りして、キーを放した所から再生を開始します。キーが5秒以上押され続けた場合は自動的に速度を早めます。演奏終了時間の約5秒前になるとそれ以上進まなくなり、キーを放すと再生を開始します。



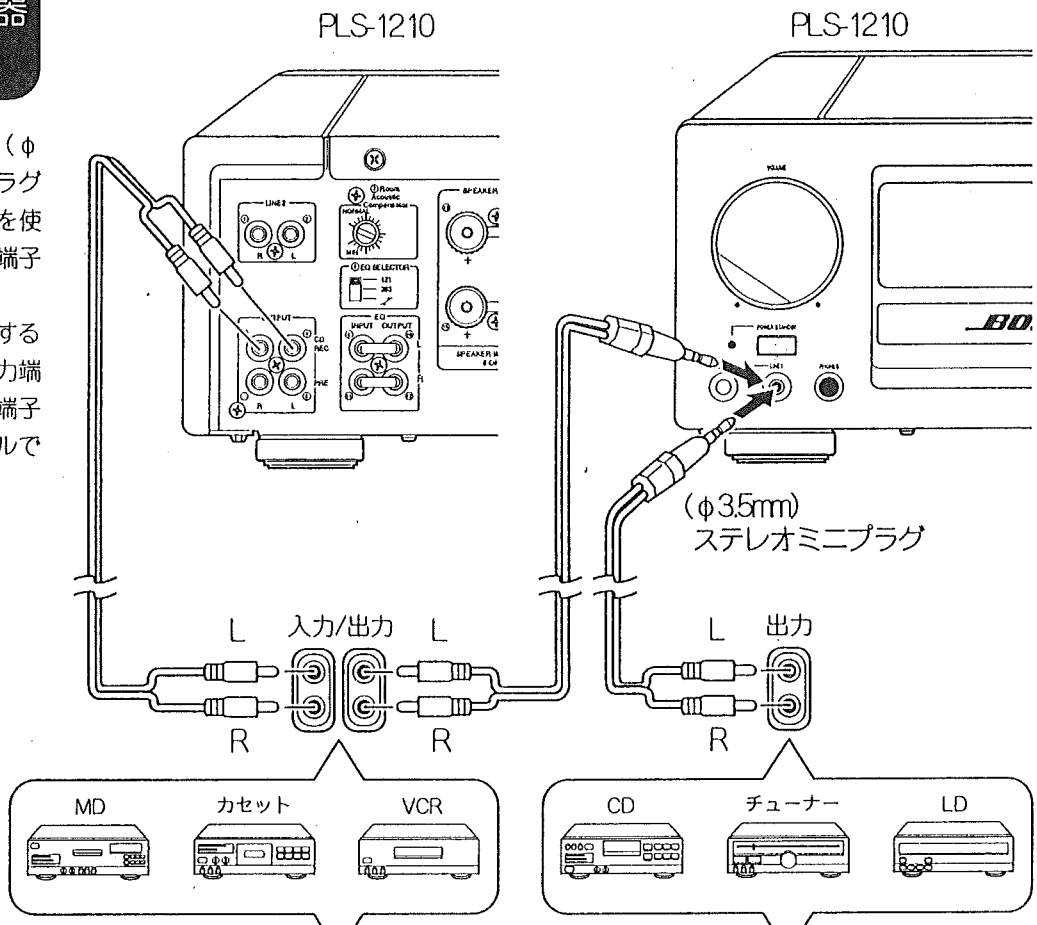
※ポーズ中にこのキーを押し続けると、現在ポーズ中のところから早送りして、キーを放した所でポーズ状態になります。
演奏終了時間の5秒前になるとそれ以上進まなくなり、キーを放すとポーズ状態になります。

その他の機器の接続

※全ての接続が終わるまで電源コードをコンセントからぬいておいてください。

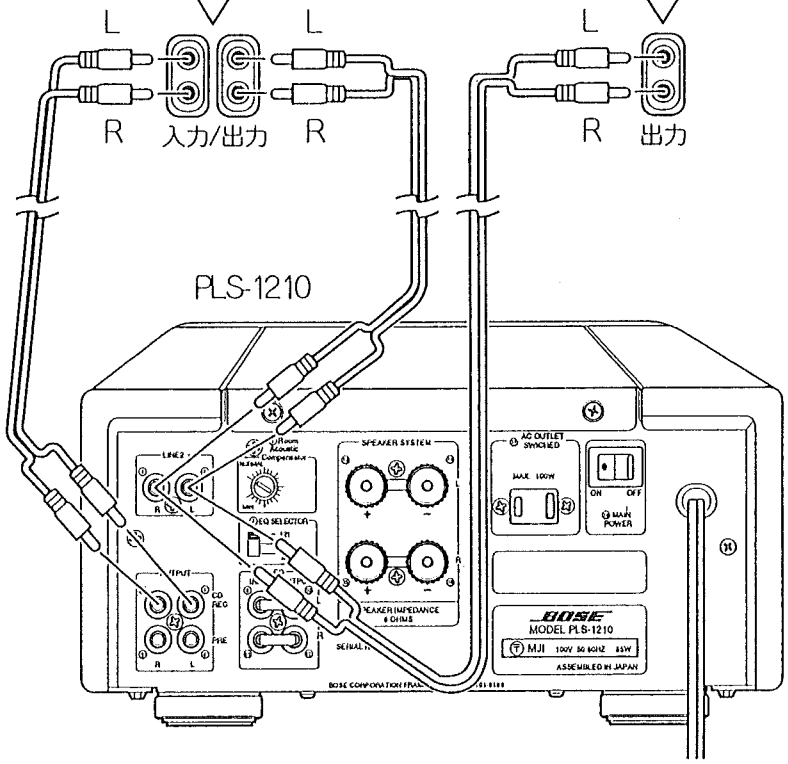
LINE1に外部機器をつなぐとき

前面パネルのLINE1に（φ3.5mm）ステレオミニプラグとピンプラグ変換コードを使って、外部の機器の出力端子と接続します。
録音ができる機器と接続するときは、外部の機器の入力端子とCD REC（③，④）端子をオーディオピンケーブルで接続します。



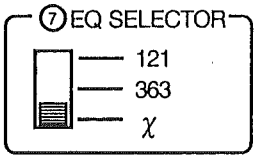
LINE2に外部機器をつなぐとき

背面パネルのLINE2に（①，②）端子とオーディオピンケーブルを使って、外部の機器を接続します。
録音ができる機器と接続するときは、外部の機器の入力端子とCD REC　（③，④）端子をオーディオピンケーブルで接続します。



◆ グラフィックイコライザーなどを接続するとき ◆

※グラフィックイコライザーなどをお使いになるときのご注意

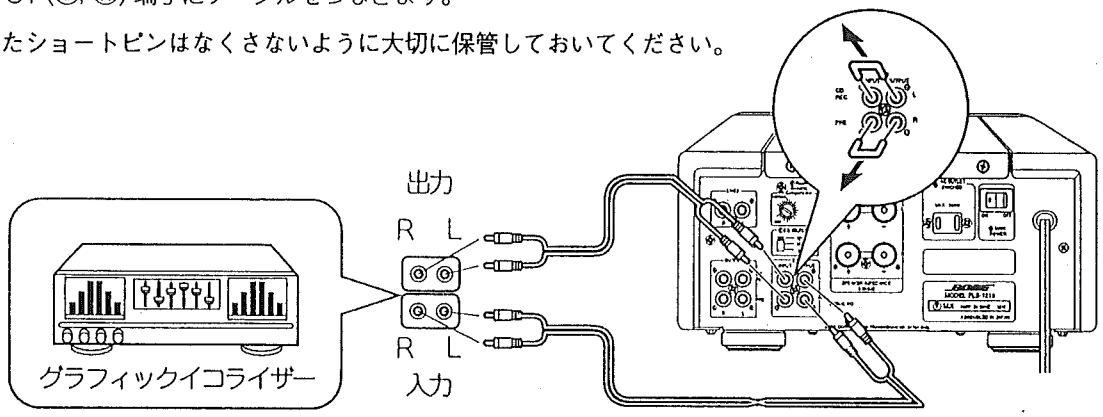


グラフィックイコライザーなどをご使用になるときは、必ず背面パネルのイコライザー切り換えスイッチをχに設定してください。(15ページ参照)

グラフィックイコライザーなどをつなぐとき

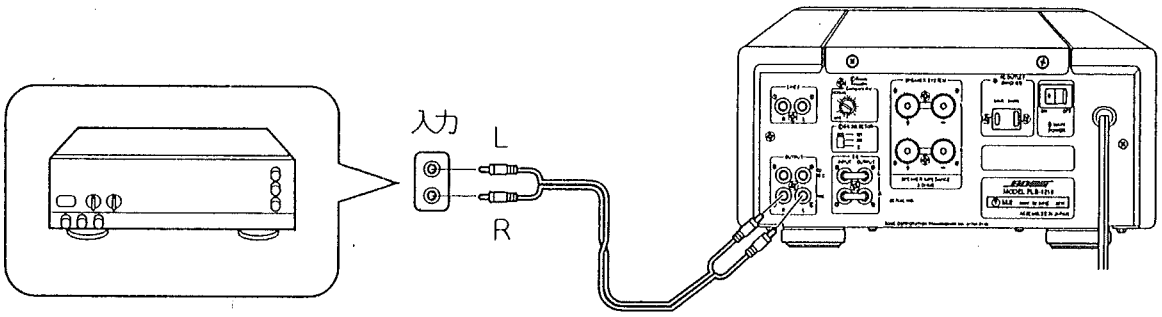
EQ端子のショートピンをはずして、OUTPUT (⑩, ⑫) 端子から外部の機器の入力端子へつなぎ、外部機器の出力端子からEQ INPUT (⑨, ⑪) 端子にケーブルをつなぎます。

※はずしたショートピンはなくさないように大切に保管しておいてください。

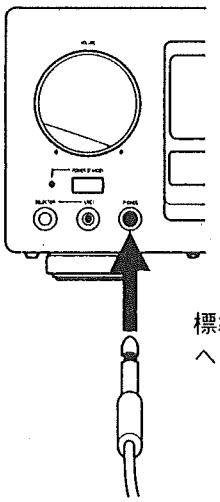


◆ プリアンプとして使うとき ◆

本体背面のOUTPUTのPRE (⑤, ⑥) 端子と外部のパワーアンプを図のように接続します。スピーカーが接続されているとスピーカーからも音がでますのでご注意ください。



ヘッドホンを使って楽しむとき



ヘッドホンのプラグを正面パネルのPHONES端子に挿入してください。
プラグを差し込むと自動的にスピーカーの音が止ります。

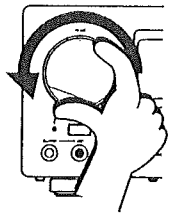
ご注意

ヘッドホンをご使用になるときは、音量にご注意ください。あまり大きな音で長時間ご使用になりますと耳を傷める場合があります。耳を刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

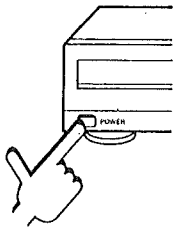
LINE (外部入力) 端子に接続されている機器を聞く方法

◆ LINE1に接続されているオーディオ機器を聞く場合 ◆

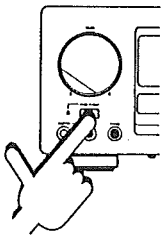
1. VOLUMEつまみを反時計方向に回して音量を最小にしておきます。



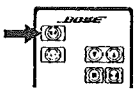
2..お聞きになりたい外部機器のスイッチを入れます。



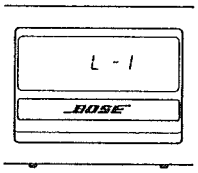
3.フロントパネルのPOWER/STANDBYキーを押して電源をONにします。



リモコンでも同じ操作ができます。

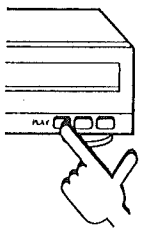


4.モード表示が "L-1" になっていることをを確認してください。もしモード表示が "L-1" になっていない場合は、SELECTORキーを押して "L-1" にして下さい。

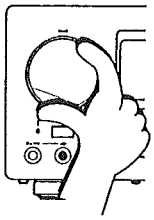


リモコンでも同じ操作ができます。

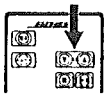
5. 外部機器の操作を行ないます。
(外部機器の操作については、その機器の取り扱い説明書をよく読んで正しく操作してください)



6.VOLUMEつまみを時計方向にゆっくり回してお好きな音量にしてお聞きください。

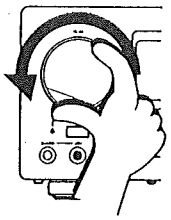


リモコンでも同じ操作ができます。

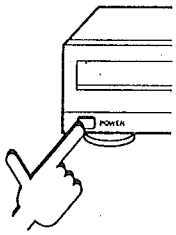


◆ LINE2に接続されているオーディオ機器を聞く場合 ◆

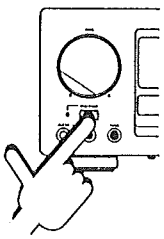
1. VOLUMEつまみを反時計方向に回して音量を最小にしておきます。



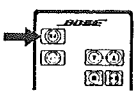
2. お聞きになりたい外部機器のスイッチを入れます。



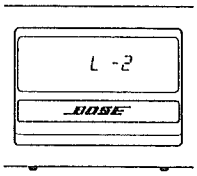
3.フロントパネルのPOWER/STANDBYキーを押して電源をONにします。



リモコンでも同じ操作ができます。

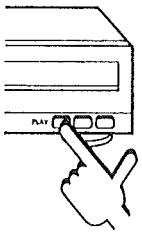


4.モード表示が "L-2" になっていることをを確認してください。もしモード表示が "L-2" になっていない場合は、SELECTORキーを押して "L-2" にして下さい。

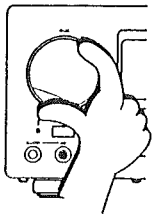


リモコンでも同じ操作ができます。

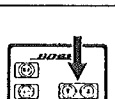
5.外部機器の操作を行ないます。
(外部機器の操作については、その機器の取り扱い説明書をよく読んで正しく操作してください)



6.VOLUMEつまみを時計方向にゆっくり回してお好きな音量にしてお聞きください。



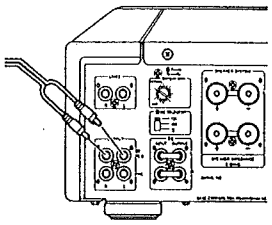
リモコンでも同じ操作ができます。



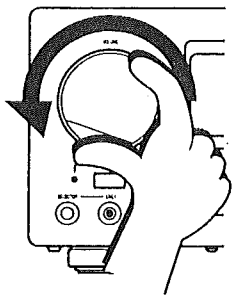
PLS-1210のCDを外部の録音機器に録音させる方法

1. 録音するためのオーディオ機器を背面パネルのCD REC端子につながれていることをご確認ください。接続されていないときは、その他の機器の接続（11ページ）を見ながら機器の接続をしてください。

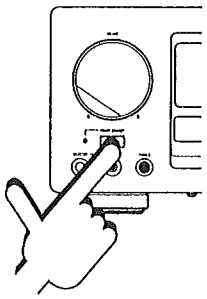
※この端子から出力される音声はCDのみです。入力モードがCD以外のときは、音声は出力されません。



2. VOLUMEつまみを反時計方向に回して音量を最小にしておきます。



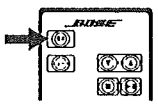
3. フロントパネルのPOWER/STANDBYキーを押して電源をONにします。



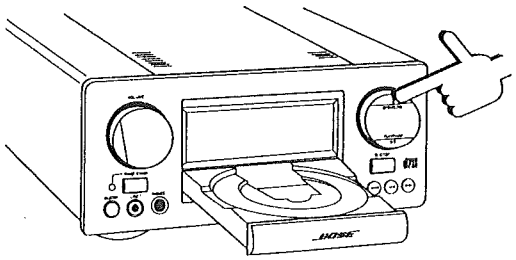
こんな方法も

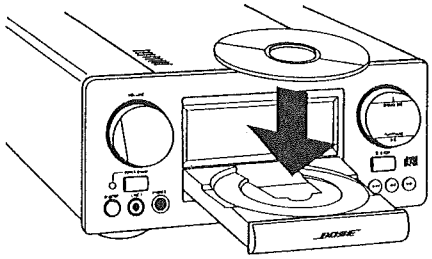
PLAY/PAUSEキーを押して電源を入れることもできます。

リモコンでもできます。



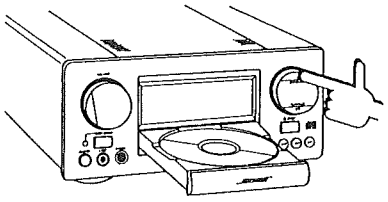
4. OPEN/CLOSEキーを押してコンパクトディスクトレーを出します。トレーにお聞きになりたいCDをラベル面を上にして静かに置いてください。



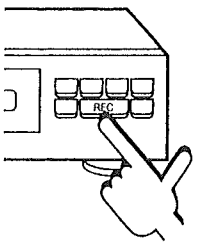


CD（コンパクトディスク）は、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。

5. OPEN/CLOSEキーを押してコンパクトディスクトレーを元に戻します。

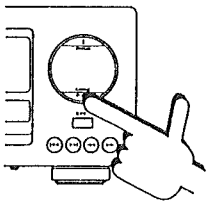


6. 外部機器の録音をスタートさせます。（外部機器の操作については、その機器の取り扱い説明書をよく読んで正しく操作してください）

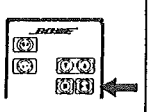


7. PLAY/PAUSEキーを押すとコンパクトディスクの再生が始まります。録音したい曲が終了したら外部機器の録音を停止します。

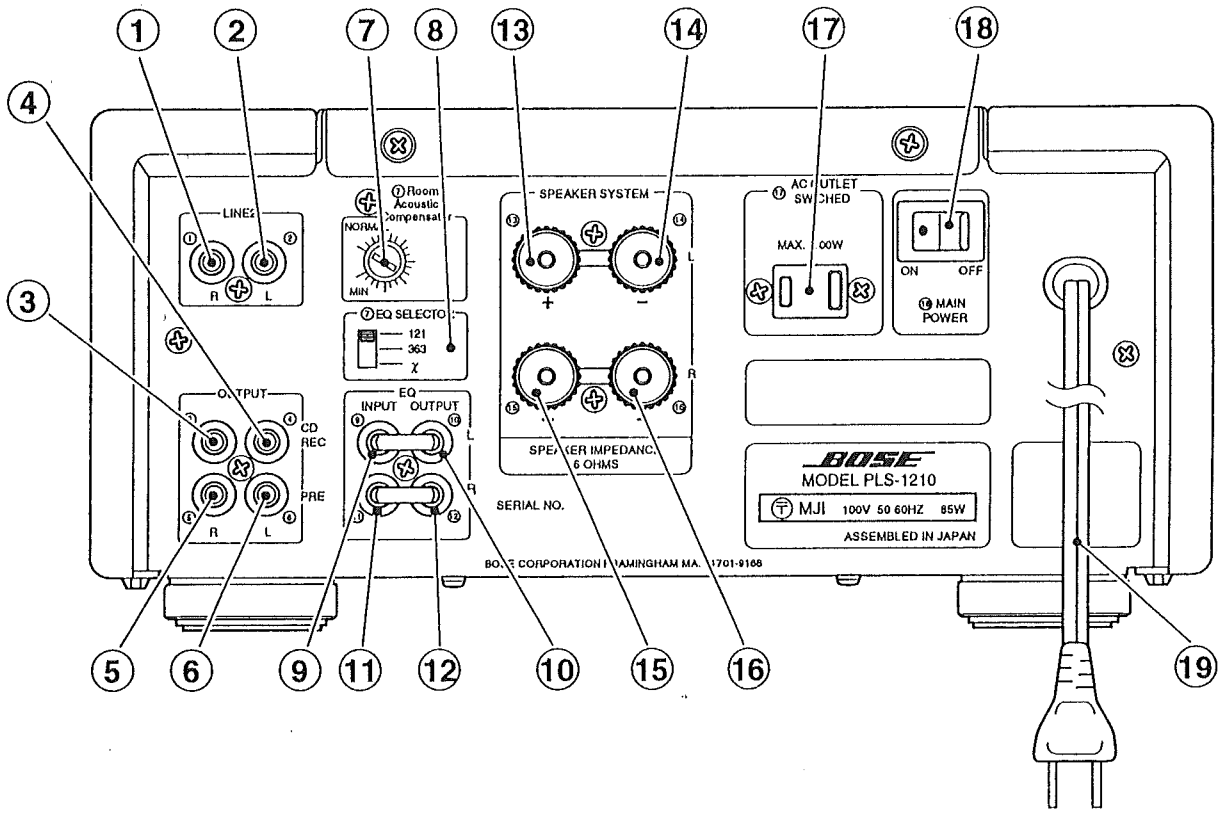
※この端子から出力される音声はCDのみです。入力モードがCD以外のときは、音声は出力されません。



リモコンでもできます。



各部の名称および機能　背面パネル



①, ② LINE2入力端子

金メッキのRCAピンジャックを使った外部からの音声を入力するための端子です。

③, ④ CD REC端子

金メッキのRCAピンジャックを使ったCDの音声を出力するための端子です。出力される音声は、ボリュウムに連動しない信号で出力します。

※この端子から出力される音声はCDのみです。入力モードがCD以外のときは、音声は出力されません。

⑤, ⑥ PRE OUT端子

金メッキのRCAピンジャックを使っています。ボリュウムと連動したプリアンプ出力信号が出力される端子です。

⑦ RoomAcoustic Compensator調整つまみ

部屋の状態や、スピーカーを壁に近づけて設置した場合等、低音が強調されすぎて聞こえる場合があります。その場合、このつまみを調整してください。

⑧ EQ SELECTOR（イコライザー切り換えスイッチ）

使用するスピーカーに合わせて専用のイコライザーを選択するためのスイッチです。121、363、χのポジションがあります。

⑨, ⑩, ⑪, ⑫ EQ（外部イコライザ用）端子

グラフィックイコライザーなどの機器をつなげるための入出力端子です。

（使用しない時には必ずショートピンを付けてください。）

⑬, ⑭, ⑮, ⑯ スピーカー出力端子

スピーカーコードを接続する端子です。金メッキされたバナナプラグ対応の大型スピーカーターミナルを採用しています。

⑰ AC アウトレット

外部機器にAC電源を供給するためのコンセントです。POWER/STANDBYキーと連動しています。最大100WまでのAC出力です。メモリーバックアップをしている機器をつなぐとメモリーが消える場合がありますのでご注意ください。

⑱ MAIN POWER（主電源）スイッチ

製品の主電源のON/OFFを行ないます。また、本機内部のマイコンは、このスイッチをOFFにして、数秒後再びONすればリセットされます。

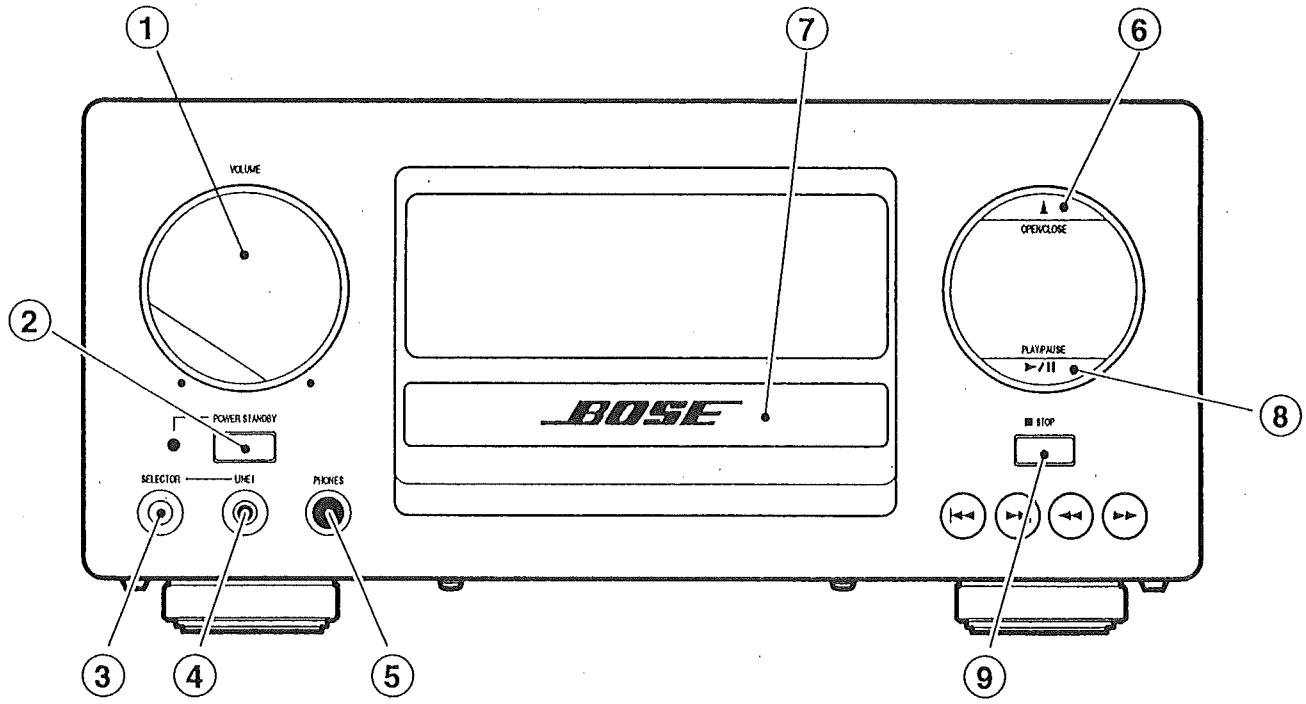
⑲ 電源コード

商用電源100V 50Hz/60Hzに接続します。極性表示付きケーブルを使用しています。

電源コードの極性について

本機の電源コードには極性表示がついているものを採用しています。接続するACコンセントの極性を合わせることによって音質がよくなることがあります。家庭用ACコンセントに極性表示がある場合（一般的には、アース側の差し込み口が長くなっています）、電源コードの白線が印刷されている方をアース側に合わせて差し込んでください。また、背面のACコンセントもアース側の差し込み口が長くなっています。他の機器を接続するときは、極性を合わせることをおすすめします。

各部の名称および機能 前面パネル



①VOLUME（主音量調整）

つまみを時計方向に回すと音が大きくなります。反時計に回すと音が小さくなります。回転型モーター駆動ボリュームを採用していますので、リモコンでもUP/DOWNができます。

② POWER/STANDBY(電源)スイッチと STANDBYインジケーター

1回押すとメイン電源が入り、4～5秒後動作状態になり、もう1回押すと 電源が切れてスタンバイ状態になります。このとき、表示が消灯しSTANDBYインジケーターが点灯します。

※入力モード（CD,LINE1,LINE2)はラストメモリーです。POWER/STANDBYキーで電源を再びONしたときは、電源を切る前の設定になります。ただし、初期値はCDモードです。

③SELECTOR（入力セレクト）キー

LINE1とLINE2の切り換えを行なうキーです。入力モードがCDの場合は、1回押すと入力信号がCDからフロントパネル上のLINE1入力に切り換わり、表示が "L-1" に変わります。もう1回押すと背面のLINE2入力に切り換わり、表示も "L-2" に変わります。キーが押されるたびにLINE1とLINE2の切り換え動作を繰り返します。

④LINE1入力端子

ステレオミニピンジャック（φ3.5mm）を使った外部からの音声を入力するための端子です。

⑤PHONES（ヘッドホンジャック）

標準のステレオヘッドホンプラグが使えます。プラグを差し込むと自動的にスピーカーからの音が切れます。

⑥ ▲ OPEN/CLOSEキー

コンパクトディスクトレーのイジェクトとロードを行ないます。

● CDモードの場合

1回押すとトレーがイジェクトされ、表示は "dISC" になります。もう1回押すとトレーがロードされます。キーが押されるたびにこれらの動作を繰り返します。CDトレーにCDがセットしてある場合は、CDの全演奏時間を表示をします。CDトレーが空の場合は "dISC" を表示します。

●ライン入力モードの場合

CDモードと同じ動作をしますが、入力と表示は "L-1" または "L-2" のままです。

⑦CD（コンパクトディスク）トレー

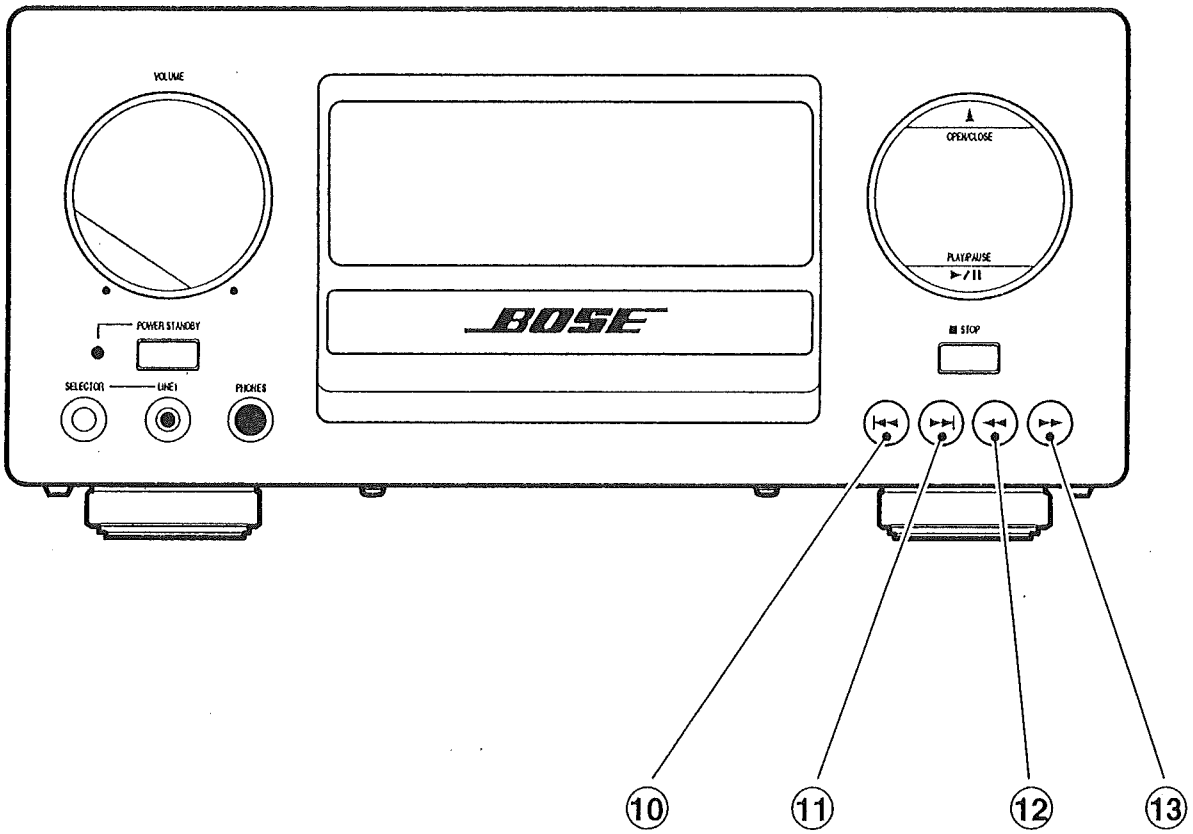
コンパクトディスクをこのトレーにセットします。CDトレーがイジェクトされた状態で軽く押すとCDトレーがロードされます。

⑧ ►/II PLAY/PAUSE（再生/一時停止）キー

CDを再生するときや、一時停止するときにこのキーを押します。また、セットの電源がONされていないときに、このキーを押すと電源が入り、4～5秒後動作状態になります。このとき、CDトレーにCDがセットしてある場合は、自動的に再生を開始します。また、CDトレーが空の場合は "dISC" を表示します。もう一回押すと、CDが再生中のときは、一時停止状態となり、さらにもう一回押すと再生を再開します。

⑨ ■ STOP（停止）キー

CD再生中にこのキーを押すと再生が中止され全曲数と全演奏時間を表示します。このキーはCDモードを選択時のみ有効です。



⑩ |◄◄ 選曲キー（戻し）

●再生中にこのキーを押すと、現在再生中の曲のはじめに戻って再生を開始します。つづけて押すと1曲ずつ前に戻ります。最初の曲まで戻ってしまった場合はそのCDの最後の曲に戻ります。キーを押すたびにこれらの動作を繰り返します。

●ポーズ中にこのキーを押すと、指定された曲のはじめでポーズ状態を維持し続けます。

●停止中にこのキーを一回押すと、最後の曲のはじめから再生を開始します。このキーはCDモードを選択時のみ有効です。

⑪ ►►| 選曲キー（送り）

●再生中にこのキーを押すと、現在再生中の曲からつぎの曲のはじめに進み再生を開始します。もう一回押すとさらにつぎの曲に進みます。最後の曲からさらに、キーを押した場合は、そのCDの最初の曲のはじめに戻ります。キーを押すたびにこれらの動作を繰り返します。

●ポーズ中にこのキーを押すと、指定された曲の先頭でポーズ状態を維持し続けます。

●停止中にこのキーを一回押すと、2曲目のはじめに進み再生を開始します。このキーはCDモードを選択時のみ有効です。

⑫ ◄◄ マニュアルサーチ（早戻し）キー

●再生中にこのキーを押し続けると、現在再生中のところから早戻しをして、キーを放した所から再生を開始します。キーが5秒以上押され続けた場合は自動的に速度を早めます。

●ポーズ中にこのキーを押し続けると、現在ポーズ中のところから早戻しを行ない、キーを放した所でポーズ状態になります。このキーはCDモードを選択時のみ有効です。

⑬ ►► マニュアルサーチ（早送り）キー

●再生中にこのキーを押し続けると、現在再生中のところから早送りして、キーを放した所から再生を開始します。キーが5秒以上押され続けた場合は自動的に速度を早めます。演奏終了時間の5秒前になるとそれ以上進まなくなり、キーを放すと再生を開始します。

●ポーズ中にこのキーを押し続けると、現在ポーズ中のところから早送りして、キーを放した所でポーズ状態になります。演奏終了時間の約5秒前になるとそれ以上進まなくなり、キーを放すとポーズ状態になります。このキーはCDモードを選択時のみ有効です。

故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
電源が入らない	・電源コードがしっかり差し込まれていないか、外れている。 ・MAIN POWERがONになっていない。	・もう一度しっかり差し込み直してください。 ・MAIN POWERをONにしてください。
ディスクが回らない	・電源コードがしっかり差し込まれていないか、外れている。 ・MAIN POWERがONになっていない。 ・CDが外れている。 ・CDが汚れている。 ・CDに傷がついている。 ・CDが反っている。	・もう一度しっかり差し込み直してください。 ・MAIN POWERをONにしてください。 ・ラベル面が上になるようにCDを正しい位置にいれ直してください。 ・CDをクリーナー等できれいにしてください。 ・傷のないCDをご使用ください。 ・反っていないCDをご使用ください。
CDは回るが音が出ない	・スピーカーの接続がされていない。 ・音量が最小になっている。 ・ミュートがかかったままになっている。	・本取扱説明書をもう1度見ながら、正しくつなぎ直してください。 ・音量の調整をしてください。 ・ミュートを解除してください。
CDは回るが途中で回らなくなり止ってしまう	・CDが汚れている。 ・CDに傷がついている。 ・CDが反っている。	・CDをクリーナー等できれいにしてください。 ・傷のないCDをご使用ください。 ・反っていないCDをご使用ください。
音が途切れる	・CDが汚れている。 ・CDに傷がついている。 ・CDが反っている。	・CDをクリーナー等できれいにしてください。 ・傷のないCDをご使用ください。 ・反っていないCDをご使用ください。
リモートコントロール操作ができない	・リモコンの送信窓が、正しく本体の受信窓に向けられていない。 ・リモコンの送信窓と本体の受信窓の間に障害物等がある。 ・リモコンの電池が逆に入っている。 ・リモコンの電池が消耗している。 ・本体の受信窓に他の強い光が当たっている。 ・インバーター採用の蛍光燈が製品のすぐ近くにある。	・受信窓に正しく向けてください。 ・障害物等を取り除いてください。 ・電池を正しく入れてください。 ・電池を新しいものに交換してください。 ・光が当たらないようにしてください。 ・蛍光燈を遠ざけてください。

Err（エラー）表示がでたときは

もし本体表示部にErr（エラー）の表示がでたときは、下記の要領でチェックしてください。

1 背面のMAINPOWER（主電源スイッチ）をOFFにして5~6秒以上そのままの状態にしてください。

2 PLS-1210本体からスピーカーコードを全て取り外してください。

3 背面パネルの主電源スイッチをONにします。

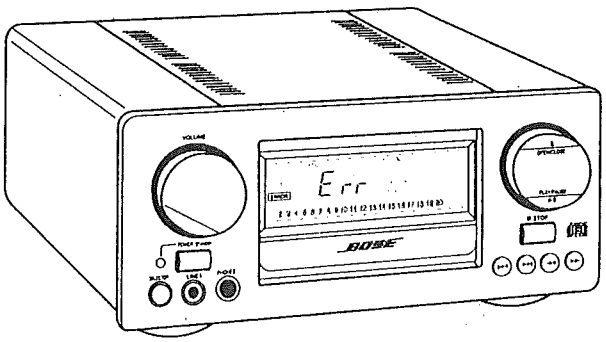
4 CDを再生して主音量つまみをすこしずつ時計方向に回していきます。

このとき正常に動作する場合

スピーカーケーブルか、スピーカーに問題があります。もう1度チェックして配線し直してください。

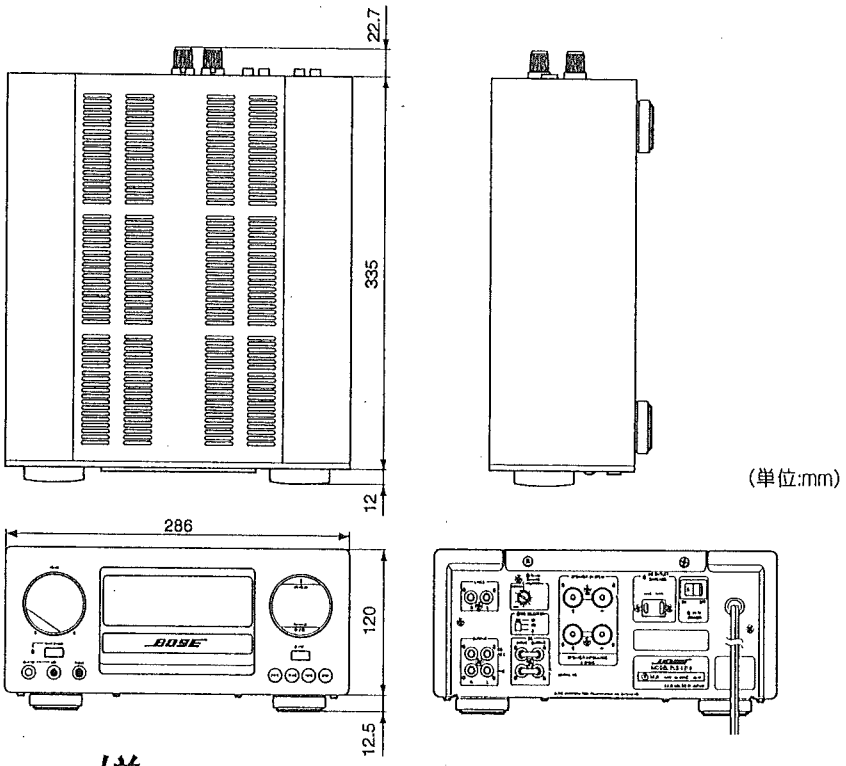
再びErr（エラー）の表示がでる場合

ただちに背面パネルの主電源スイッチをOffにして、プラグをコンセントから抜き、お買い上げになった販売店もしくは、ボーズ株式会社にご相談ください。



パネルのErr（エラー）表示

寸法図



(単位:mm)

仕様

〈総　　合〉

サイズ	286(W)×132.5(H)×369.7(D)mm
重量	7.1kg
電源	AC100V 50/60Hz
定格消費電力	85W（電気用品取締法）

〈CDプレーヤー部〉

再生周波数帯域	20Hz～20kHz ±2dB（CD REC OUT）
ダイナミックレンジ	95dB(1kHz A-WTD)
S/N比	95dB (A-WTD)
歪率	0.005%（1kHz 0dB）
チャンネルセパレーション	90dB（1kHz）
ワウ・フラッター	測定限界値以下

〈アンプ部〉

定格出力	40W+40W (20Hz～20kHz, 6Ω THD 0.05%,両チャンネル駆動時)
再生周波数帯域	10Hz～40kHz （+0、－1dB 、LINE2 IN、定格出力時、EQポジション：χ）
S/N比	90dB以上
CD REC OUTレベル	500mV/1kΩ
PRE OUTレベル	1500mV/1kΩ
入力感度	LINE1 250mV/47kΩ
	LINE2 250mV/47kΩ
チャンネルセパレーション	65dB以上（LINE2）

保証

通常の使用において発生した故障に対しては、ご購入時より1年間の保証をさせていただきます。ただし、改造及び誤った使用、不注意による故障・外観上の破損については、このかぎりではありません。

BOSE®
Better sound through research.

ボーズ株式会社
〒150 東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル TEL03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

Printed in Japan
95/03 SK 252J851112
95・1・F・B・1(1-M)
OM-1022-02